

退院支援及び地域生活支援の 必要度及び満足度について — ACT-Jにおける調査より—

○佐竹 直子¹⁾、羽間 京子²⁾

1) 国立国際医療センター 国府台病院、2) 千葉大学社会精神保健教育研究センター

この調査は、精神科入院患者の円滑退院や地域生活のために必要な精神保健福祉サービスの質を明らかにすることを目的とし、こころの健康科学研究費補助金「精神医療の質的実態把握と最適化に関する総合研究：主任研究者 伊豫雅臣」の分担研究「地域精神保健福祉サービスの拡充に関する研究：分担研究者 羽間京子」の1研究として平成20年度に行われたものである。精神医療が病院中心から地域中心のサービスに移行していくにあたり、地域サービスの必要な内容や量についての検討が必要となってきた。地域生活においては障がい者のニーズに基づいたサービスの提供が何よりも重要であるが、我が国では地域生活支援に対する必要度及び満足度について、サービスの受け手である障がい者を対象とした調査研究が乏しいため、退院支援及び地域生活支援の必要度及び満足度について、重症の精神障がい者に対する地域生活支援プログラムであるACT-J利用者20人を対象として、対面法による聞き取り調査を実施した。この調査は千葉大学の倫理委員会の承認を得て行われた。

<調査対象者>

年齢20才以上の統合失調症、双極性障害、重症うつ病のいずれかの診断を受けていて入院経験があるもので、訪問看護ステーションACT-J(千葉県市川市)でACTの訪問サービス利用者。本人の研究同意が得られたもの20名に対して調査した。

<評価項目>

1. 円滑な退院のために入院時に必要な支援
2. 退院後に利用している地域サービス
3. 地域生活の満足度

4. ACT-Jの支援の具体的必要度と満足度

5. ACT-J

プログラム全体の満足度 CSQ-8Jにて調査

<調査方法>

対象者の自宅ないし自宅近隣において対面法による聞き取り調査を行った。

<調査期間>

平成20年12月から平成21年1月末日 当日、この調査結果の詳細を提示し、ここから導かれる精神障がい者の地域でのニーズやACTのサービスについての満足度の結果を基に、今後の退院促進、退院支援に何が必要かについて考察を加えたい。